

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001362		
法人名	有限会社 豊中オアシス		
事業所名	グループホーム桜塚オアシス		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4－11－4		
自己評価作成日	平成24年3月18日	評価結果市町村受理日	平成24年8月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成24年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街です。散歩には、丁度良い距離に公園や神社があります。木造ですが昔懐かしい感じがし、とても落ち着けるホームです。入居者の方は、その中でその人らしく、思いのまま生活しています。近隣との関わりも深くなり、 敬老会や老人を囲む会など地域より誘いも多く、入居者様も参加を楽しみにしておられます。認知症であってもその人らしく、楽しく生活が送れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

組織母体は「有限会社豊中オアシス」で豊中市、西宮市に3箇所のグループホームを運営している。木造2階建ての寮を改造し、平成14年1月1日に「グループホーム桜塚オアシス」が最初に設立された。ホーム周辺は静かな住宅街で、近くに古墳、神社、公園、小学校、商店街、コープなどがあり、生活に便利な環境である。管理者と職員は「笑顔で支援する。利用者の残存能力を活かした支援。利用者にさり気ない声かけをする」を目標に、利用者中心の支援を心がけている。利用者が四季の移り代わりを忘れないように、弁当持ちで花見や年2回、家族も参加できるバスツアーを企画するなど、季節の行事を多く取り入れた支援をしている。利用者、家族が「ここのホームにきてよかった」と、そのように思ってくれる心むホームを、全職員は目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で共に家族、入居者、職員そして地域が支え合い楽しく、安全に暮らせる環境を理念のもと取り組んでいます。	法人の理念を玄関やフロアの目の付く場所に掲げて、毎月の職員会議やフロア会議の場で話し合い、理念を共有しているが、事業所独自の理念はまだ出来ていない。	地域密着型サービスの役割を考えて、地域や利用者のニーズ、事業所の状況変化等を管理者と職員で話し合い、現状にあった事業所独自の理念を作りあげていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや秋祭り、敬老会等への参加を通じ交流を図っている。又、ホームの夏まつりには、近隣の子供達や地域の方を招待し交流しています。	緑地校区福祉委員会に加入し、地域の盆踊りや秋祭り、敬老会など各種行事に参加して日常的に交流をしている。ホームの夏祭りには近隣の各戸に招待状を配布して、地域の人や子ども達が参加し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に入居者様にも出席して頂き、思いや悩みを話して頂いてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での内容を職員会議で報告し、サービスの向上につなげている。	会議は年6回、市高齢者施策課、地域包括支援センター、介護相談員、校区福祉委員会、利用者、家族、職員の参加で、入居者状況や行事報告を説明し、参加者からは質問、要望等が出され双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ市の担当者に報告・相談し、協力を得ている。	市事業所連絡会への参加や介護保険課に申請手続き、福祉事業所へ生活保護の相談、報告など市の担当者との話し合いや相談の機会を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての話し合いは、日常的に話し合い、ケアに取り組んでいる。	職員は研修で身体拘束によって、利用者が受ける弊害について理解している。昼間の門扉は安全のため施錠しているが、玄関の鍵は開錠し、敷地内の出入りは自由で、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での話し合いを常に設け指導している。小さな怪我や内出血も見逃さないように注意し、それらを確認した場合は原因究明に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等により学ぶ機会を設け、日々のケアに活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がない様に十分に説明を行う様に図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様の意見や要望に職員全員が耳を傾ける事を心がけ、運営に反映させている。	家族の来訪時には利用者の生活状況や身体状況等の報告や記録の閲覧をして頂き、出来るだけ多くの意見、要望を頂く様に努めている。運営推進会議では活発な意見、要望を交わし、その後の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、ユニットごとのミーティングでの意見や提案を話し合い反映させている。	月1回の職員会議や毎日のフロア会議で利用者のケアについて話し合い、意見、提案を出し合っている。年2回の自己評価を実施しており、その後の運営に反映させている。今後は個人面談の実施を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用い、各自が向上心を持って働ける様努め、把握し、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修により学ぶ機会や資格取得を勧め、専門職としての自覚が持てる様取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営推進会議に参加したり、地区のネットワーク会議に参加し、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を確認しながら、無理のないサービスの提供を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望を傾聴し、それらの解消に努め、信頼の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のこれまでの介護苦労をしっかり受け止め、不安の解消、信頼の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護、自己決定を心がけ出来ることは、協働しながら日々の支援を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えることを前提に情報交換を密に取り合う協力体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの関係が断ち切れる事無く、電話や手紙、訪問など自由に継続出来る様支援しています。	家族の協力を得て、馴染みの美容室や買い物、食事に出かけている。家族や知人への電話や手紙の連絡交流の支援や、友人の訪問時にはお茶など出して、何時でも来訪できるように関係継続の為に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じ、入居者が交流を持ち、孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、いつでも相談に応じられるよう、繋がりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中の会話や行動を観察し、本人の意向を把握する様に努め、自らがその思いを出せる様な雰囲気作りをしています。	アセスメントシートで、利用者の生活歴や暮らし方の希望、意向を把握し、日常の関わりでの会話から気づきや発見を職員間で共有して、本人の生活習慣や生活リズムを基本として無理強いしない支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後においても家族やご本人より、生活歴や生活環境など情報の収集を行い、全員が共有出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調面・精神面とその日、その時、変化する状況に合わせた支援が出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフだけではなく、家族様にも情報の共有、報告を密にし、ご本人の意向に添った介護計画を作成しています。	本人と家族の意向を聞いて、モニタリングやカンファレンス時に関係者からの気づきや意見を出し合い、本人、家族の思いや希望を反映した現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や内容は個別記録に記載し、必要時ミニミーティングをユニットごとに開き改善点の話し合いを行い実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援や訪問理容、訪問歯科等柔軟に支援、サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加し、楽しみを見つけ、又地域の方々と顔なじみになり安心、安全な生活が出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様協力のもと、これまでのかかりつけ医での受診やかかりつけを持たない方は家族、ご本人の同意、納得の上事業所の協力医での受診を支援しています。	本人、家族の希望を尊重して、これまでの医療機関での受診も可能であるが、話し合いで協力医療機関に移行し、必要な医療を受診している。受診や通院支援についても希望に添うよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、状態の変化など各関係機関との連携で適切な支援が行える様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームから病院に対しての介護サマリーを提供し、出来るだけ早期に退院できる様連絡調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期のあり方について本人、家族の意向を確認し話し合い方針を共用する様に努めている。	入居時に事業所として「出来ること、出来ないこと」の対応し得るケアについて、口頭で説明をしていたが、「重度化に対しての指針と同意書」を文書化して、利用者、家族全員に改めて説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での研修をはじめ救命講習会の参加受講を勧め急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防訓練に参加し地域連携を図り、ホーム内でも訓練を行っている。水や食料等非常時の備蓄の準備もしている。	事業所として年2回、消火、通報、避難の訓練を実施している。スプリンクラーの設置、備蓄の準備もされているが、地域との協力体制の具体化が十分出来ていない。	木造建築なので日頃から火災に対しては意識は高められているが、運営推進会議で協力を呼びかけ、色々な事態を想定した実効性のある体制づくりを目指されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような言葉かけを意識している。	職員は声かけや働きかけの仕方に気をつけている。特に入浴、排泄の介助においては、羞恥心を起こさせない支援を心がけている。個人情報も事務所の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定が出来る環境作りを心がけている。ゆっくりと余裕を持って接することにより、要求の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の好みを優先し、季節感のある服装が出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気を大切にしながら季節の食材を取り入れ目で見てもおおいしそうに綺麗に感じ取れる様盛り付けに工夫している。配膳、下膳、片付け等一緒に行っている。	法人の給食会社から調理された食材を週3回購入して、献立で足りない部分は補足している。職員は見守りに徹して、一緒に食事をしていない。週数回は利用者の好みを聞いて、おやつ作りを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録を残している。好き嫌いの把握、食事形態の工夫などにも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯洗浄を実施する等、個別に対応しています。訪問歯科医による衛生管理や義歯調整も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄機能を把握し、声かけ誘導を行い不快感の軽減をはかり自尊心を傷つけない様対応しています。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導に不快感を与えないように配慮しながら、トイレで排泄、排便が出来るよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食事に注意して個々の体質に気を配り援助しています。必要時には、便秘薬の服用や腹部マッサージ等も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制せず一人ひとりのペースに合わせ心地良く入浴してもらえるように努めています。体調などが理由で入れなかった場合は、後日様子を見ながら入って頂く事もあります。	週2回の入浴日を設けている。入浴前には血圧、体温を必ずチェックしている。季節に応じて菖蒲湯、ユズ湯など、入浴剤を使用して季節感を演出して、個々の湯加減などに配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣、体調に応じ日中の休息が出来る様に支援しています。夜間は良い睡眠が取れる様に気分が落ち着く様な声かけや対応をする様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用、用法用量については、服薬説明書で各自把握するように努め、服薬時は、名前、日時、顔を声を出して確認し誤って服薬しない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割が持てるような援助を職員間で話し合い、共有している。天気の良い日には、外でのお茶したり、おやつを買ってきたりと入居者様の要望にも応えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋の行楽や季節ごとの行事を行い、個別での散歩や買い物等も支援している。	ホームの周辺は古墳、神社、公園、商店街があり、天気の良い日には、体調をみながら散歩や買い物に出かけ、引きこもりをなくするよう努めている。気分転換をかねて車で遠くまで弁当持参での花見、年2回の家族参加のバスツアーを企画して喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、レジでの支払いをして頂く等、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙の取次等自由に出る様支援している。ご本人から電話したい、手紙が書きたいとの要望にも支援し対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような温かな雰囲気作りを心がけ、居心地良く過ごして頂ける様努めています。	ホームは木造建築の建物で、廊下、階段、食堂などの空間はゆったりと余裕があり、木の温もりを感じ、落ちつける。壁には利用者の作品の書道やホーム内のあちこちにフラワーアレンジメントされた利用者の作品の花が飾れて心和む雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士が、食堂や長椅子に腰かけおしゃべりを楽しんだり、外に出て日向ぼっこが出来る空間作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には馴染みの家具や品物を持って来て頂き、混乱なく、安心して生活して頂ける様な配慮をしています。	居室には馴染みのタンスや椅子、テレビ、家族写真などが置かれて、家族の協力で過ごしやすい安全な居室がつくられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂等わかりやすい表示を付けたり、居室のお名前も必要な方には、大きく表示し、認識しやすい様な工夫もしています。		